

図書館を運営する側を経験してみても学んだこと。

秋山 薫 (科目等履修生)

小学生の頃は児童用の書架へ行って、よく本を借りていました。読書感想文の推薦図書から知った、お気に入りの作家さんの本を繰り返し借りて読んでいました。ですが中学生になった時、急に自分はどこの書架へ行ったらいいのか分からなくなってしまいました。もう児童用の書架へ行ってはいけない気がして、かと言って一般書架に行ってもどの本を読んだらいいか分からず、図書館の敷居が高く感じるようになって、読書から遠ざかってしまいました。

そんなとき、どんな本を読んだらいいか、司書の方に相談してみればよかったのだな、と今なら思います。きっとヤングアダルトの書架を紹介してくれ、あるいは私の好みのジャンルを聞いて、一緒に探してくれたかもしれません。ですが当時の私は司書の方がいることすら知らず、もちろん司書がどんな仕事をしているのかも知りませんでした。

実習を通して特に印象に残っているサービスは、以下の四点です。

①利用者に対するきめ細やかなサービス

講義で DAISY 資料について学んではいましたが、それが具体的にどのように活用されているか学びました。職員の方が、DAISY 資料をよく借りる利用者をリストアップしており、電話で積極的にコミュニケーションをとりながら、その利用者の借りるペースや好みのジャンルなどを記録し予測して、前以て全国から取り寄せておくなど、きめ細やかな対応を行っていました。DAISY 資料は第四種郵便なので送料がかからないんです、と職員の方は笑っていらっしゃいました。全国の図書館から取り寄せるため、依頼書のテンプレートを自作して、どんどん取り寄せを行っていました。これは特に指示があったわけではなく、自主的にやっている業務とのことで、その積極性と献身的なサービスに、本当に感動しました。

②本館や各分館で利用者に根差した役割分担

私の実習させて頂いた図書館は、地域の中心となる本館と、他に四つの分館と移動図書館とがあります。分館を見学させて頂いた時は、各館がさまざまな顔や工夫をしていることを学びました。駅に近い分館は貸会議室や視聴覚室を備えていて、(近所にも市民の交流施設があるためか) サークル活動やイベントなども行えるという顔を持っていました。またお茶畑のそばにある分館は敷地が限られており、その中でその月のテーマに沿った本をアピールし、館長さんが自然がお好きとのことでカウンターにお花が活けてあったり松ぼっくりや植物の種などが標本箱に飾られたりして、癒しの空間となっていました。

③選書会議

講義を通して特に興味を持っていたことが、選書でした。図書館は地域住民のためのものだから、リクエストには出来る限り応えるべきであると思う一方、図書館にも一定の基準があって然るべきとも思っていました。なにより図書館は良い本を後世に伝えていくべき場所だと考えていたため、選書は慎重を極めるものだと思っていました。

実際に選書会議に参加させて頂いた際、各分館の館長と本館の選書担当が集まって、実際に本を手に取りながら選書していきました。これはローカルルールだと思いますが、買う本

は手前に出して、買わない本は奥に押し込み、意見が割れたら背を上にして棚に戻す、という決まりを教わったため、どのような本を必要・不要と皆さん選り分けているのか、いくつか見てみましたが、尤もだと思える選択もあれば、分からない選択もありました。この本は本館が買うので分館は買わない、この本は人気だろうから分館も買う、などてきぱきとお話が進んだため、最後にいくつか皆さんの選書基準を質問してみたところ、主だった著者や出版社、受賞作品は外さないようにしているとのことでした。なるほど、図書館はその時代の世相を切り取って、年輪のように残していく場所なのかと考えを改めたことを、最後に選書担当の職員の方にお話したところ、流行だけではなく、なかなか出回らない本も収集する義務があるというお話を頂き、(講義でも学んだはずではありますが) 新たな視点を得ることが出来ました。

④どの館で借りてもどの館でも返せる

これは利用者側だった頃は単に便利なサービスだと思っていましたが、実はたくさんの人に支えられていることを知りました。このサービスを支えているのは、まずカウンターで返却された際、どの館の図書なのか正確に分別されることから始まります。本館以外の図書は、各館のボックスに仕付けていきます。そして翌日、連絡車と呼ばれる車に、そのボックスを積み込み、各館へと運搬します(この際、車には各館のリクエスト・予約本も積み込まれています)。そして各館へ到着すると、その分館の図書を引き渡し、その分館で返却された本館の図書を受け取るのです。ボックスは台車で運びますが、とても重いので、積み下ろしが大変です。こうした見えない作業が毎日行われているから、利用者は便利なサービスを楽しんでいるということを知りました。

最後に、館長から初日に頂いたお話ですが、「仕事を覚えようとするよりも、どんな仕事があるかということを経験してほしい」とおっしゃってくださいました。お言葉をそのまま借りてしまい恐縮ではありますが、まさにその通りだと思います。実習まで履修する学生は、講義を受けている時の人数に比べ少ないことは、さまざまな理由があり、仕方のないことも知れません。ですが実際に現場に出てみて初めてわかったことや、講義を通して学んだことがつながって、より知識や考えが深まり発展したこともたくさんありました。

私は一度社会人を経験してからこの司書課程を履修させてもらったのですが、学生だった当時の自分を振り返ると、インターンシップや自己分析、面接対策に追われ、入社後の自分をきちんとイメージできないまま就職活動をしていたと思います。もし自分の将来、司書を選択肢のひとつに数える可能性が少しでもあれば(選択肢が多ければ多いに越したことはありません、やり直しはいくらでもきくと思います)、ぜひ実習を履修することをお勧めします。